

## 第4回青森駅を中心としたまちづくり有識者会議 会議概要

1. 開催日時 平成29年5月16日(火) 16:00～17:10

2. 開催場所 ホテルクラウンパレス青森 2階 「奥入瀬」

### 3. 出席者

#### 【委員】

赤石 佳昭、伊香 佳子、大津 千鶴子、加藤 博、  
北原 啓司(座長)、齋藤 道法、鈴木 武彦(代理:小林 孝)、珍田 裕之、  
西 秀記、東 直樹(代理:船木 久義)、矢崎 芳男、森内 忠良  
以上12名(2名欠席)

#### 【事務局】

都市整備部長(大櫛 寛之)、総務部長(代理:総務部参事 小野 正貴)  
経済部長(代理:経済政策課長 工藤 健志)、  
都市整備部理事(八戸 認)、都市整備部次長(長井 道隆)、  
都市整備部都市政策課長(佐々木 浩文)、都市政策課副参事(遠嶋 祥剛)、  
都市政策課主幹(東條 英哲)  
都市政策課主査(京谷 智 山内 拓也)、都市政策課技師(北澤 宏和)

### 4. 次第

1. 開 会
2. あいさつ(都市整備部長)
3. 議 事  
(1) 青森駅自由通路デザイン等について
4. 閉 会

### 5. 会議概要

- ◆ 「青森駅を中心としたまちづくり有識者会議実施要綱」第3条第3項の規定により、北原座長が会議議事を進行。

#### 【北原座長】

先程、お話しがあったとおり、先月の16日に委員の皆様にも何名か御参加いただいた、「青森駅自由通路に関するワークショップ」があった。そこで出た様々な意見、まとめについてのいくつかの論点について、青森市に説明していただき、皆様から御意見をいただきたいと思っているので、いつものように積極的に御協力をお願いします。

次第に従い、青森駅自由通路デザイン等について、事務局から説明をお願いします。

## ◆（１）青森駅自由通路デザイン等について

事務局より資料１に従い説明。

### 【事務局】

去る４月１６日に開催した、第３回「青森駅自由通路に関するワークショップ」では、自由通路のデザイン素案に対し様々な御意見をいただいた。（会場）正面の左側に、（ワークショップでの各班の発表シートを）掲示している。多くの皆様の御協力に感謝申し上げます。

本日は、ワークショップの御意見を事務局で整理したので、御説明をさせていただきます。

### （資料１ １ページ）

まず、４月１６日に御出席されていない方もいるので、４月１６日の繰り返しになるが、改めて、「青森駅自由通路等のデザイン素案」について御説明する。

昨年２回開催したワークショップにおいて、皆様からいただいた御意見を参考にしながら作成した自由通路のデザイン案となる。

### （資料１ ２ページ）

案１は、

- ・「青森の海、山、空を感じる回廊」をテーマに、  
青森の顔として、人々をやさしく迎え入れるゲート  
海と山と空、青森の眺望を絵画のフレームのように切り取って魅せるギャラリー空間をイメージしたデザインである。

### （資料１ ３ページ）

案１の内観イメージである。

### （資料１ ４ページ）

案２は、

- ・「木の温もりと親しみを感じる回廊」をテーマに、  
森や山々の豊かな緑に恵まれた青森  
そのイメージを象徴するナチュラルな木調の内外装  
駅前の原風景である積まれたりんご箱を想起させる温もりと親しみの空間をイメージしたデザインである。

### （資料１ ５ページ）

案２の内観イメージである。

(資料1 6ページ)

案3は、

- ・「過去と未来をつなぐ回廊」をテーマに、  
交通の結節点＝交流の拠点、青森  
連絡船と呼応するような大きな船を思わせるような曲面天井がおおらかに迎える  
歴史を重んじながらも新しい青森の発展を予感させる空間  
をイメージしたデザインである。

(資料1 7ページ)

案3の内観イメージである。

4月16日のワークショップでは、この3案についてグループワークをしていただいた。

(資料1 8ページ)

ワークショップにおいてお示ししたデザイン案3案について、いただいた御意見を整理したものになっている。

左側が肯定的な御意見、右側が否定的な御意見、下がその他御意見となっている。

肯定的な御意見としては、

- ・白い壁とガラス、シンプルなものが多い  
などといった御意見。

否定的な御意見としては、

- ・案2、案3と比べると暗い  
などといった御意見。

また、その他御意見として、

- ・白い壁、ガラスをうまく使って欲しい  
などといった御意見となっており、案1については、肯定的な御意見と比べ、否定的な御意見が多かったものと捉えている。

(資料1 9ページ)

9ページ目は案2についてである。

肯定的な御意見としては、

- ・りんご箱はかわいいのでよい  
などといった御意見。

否定的な御意見としては、

・りんご箱はいらない  
などといった御意見。

また、その他御意見としては、

・りんご箱の部分を市民参加で仕上げると良い  
などといった御意見となっており、案2については、比較的肯定的な御意見が多く、また、否定的な御意見が少なかったものと捉えている。

#### (資料1 10ページ)

10ページ目は、案3についてである。

肯定的な御意見としては、

・船を思わせる屋根は斬新  
などといった御意見。

否定的な御意見としては、

・赤い内壁は作品の展示を行う場合、壁の主張が強く邪魔  
などといった御意見。

また、その他御意見としては、

・船とのつながりは内部で歴史写真の展示等程度でよい  
などといった御意見となっており、案3については、比較的肯定的な御意見も多かったが、同時に否定的な御意見も多かったものと捉えている。

#### (資料1 11ページ)

11ページ目には、デザイン素案全体についての御意見を記載している。

・250m美術館を実現するには、ニッチを設置してほしい、ニッチがないと面白みが無い

などといった御意見をいただいた。

#### (資料1 12ページ)

12ページ目には、その他、機能等についての御意見を記載している。

・まち歩き、観光コース、お店回りなどのコースになるような自由通路を目指してほしい

などといった御意見をいただいた。

また、去る5月9日に開催した、青森市景観審議会では、「周辺の街並みと調和するよう配慮していただきたい」との御意見をいただいたところ。

### (資料1 13ページ目)

これまで御説明した各案の御意見をまとめると、各案とも肯定的な御意見、否定的な御意見、様々な御意見をいただいているが、全体としては、案2に対する肯定的な御意見が比較的多く、否定的な御意見が少なかったものと捉えており、事務局（のまとめ）としては、案2をデザインのベースに設計を進めていくのが良いのではないかとしている。また、デザインに限らず「利用者が使う状況」や「物語が生まれること」などを考えることが大切との趣旨の御意見があった。

ワークショップで各班から示された御意見、

- ・ 鉄道利用者や通路として使う一般の方など、さまざまな利用者がさまざまな使い方を  
する状況を考えること
- ・ 出会いと別れや経年変化など、物語が生まれることを考えること
- ・ 四季折々の風や景観を中からも外からも楽しめるように配慮すること
- ・ まち歩きに組み込まれていくような魅力ある通路にすること

などの視点が、これから作る自由通路が市民の皆様などに愛着を持って御利用いただく上で最も重要な点ではないかと捉えている。

本年度行う実施設計が、今後につながるよう、作業してくために、本日、委員の皆様からこれらの点をもう少し深度化して、イメージを共有しながら御意見をいただきたいと考えている。次のページは、御意見を頂戴する上での補足資料となっている。

### (資料1 14ページ)

ワークショップで、自由通路から北側への見え方のお話があったので、その位置関係についてお示しする資料となる。

ご覧のとおり、自由通路の北側、海側は、乗換跨線橋となっているので、自由通路の北側に大きな窓などを設けたとしても、自由通路と跨線橋が重なる部分については、海への眺望が得られない状況となっている。今回の基本設計では、自由通路西側と乗換跨線橋から海側への眺望を確保できるよう、配慮している。

なお、自由通路と跨線橋が重なる部分については、昨年夏のワークショップでの「のぞき窓などの工夫」などの御意見を参考としたデザインとしているものである。

### (資料1 15ページ)

西口駅前広場の平面イメージ図となっており、自由通路西側がどうなるのかという部分で、イメージを共有するための資料となっている。

現在の西口は、歩行者と自動車等の交通が輻輳している状況にあり、また、身障者用駐車施設が整備されていないことなどから、西口駅前広場を整備することにより、安心・安全・快適な歩行空間が確保できると考えている。また、東口の交通環境の改善等についても期待できるものと考えている。

西口駅前広場は、全体面積約8,300㎡として、2月に自由通路と合わせて都市計画

決定をしている。

西口駅前広場については以上である。

なお、ワークショップでの各班の発表シートと発言概要については、参考資料1及び参考資料2としてお配りしているので、参考としていただきたい。

青森駅自由通路デザイン等についての説明は以上である。

### 【北原座長】

今のお話にもあったように、案1、案2、案3のどれがいいか、ということではなく、ベースとしては案2の方に肯定的な意見があったが、デザインというのは好みがあり、ある人は白がいいと言い、ある人は濃い色がよかった、という話もあるので、むしろ、今見るべき点は、そのあとに出てきた、形よりもそれがどういうものを目指すべきかとまとめられた、13ページにある、物語を生み出すということや、利用者がどう使っていくかという話、あるいは、中からも外を眺められるという様なこと、何が見えるかを意識すべきだということを、そして、この通路自体が、青森駅を中心としたまちづくりの中での、全体のまちづくり、まちを歩くということの中で、どう位置づけられるかみたいなことを重視すべきであるということを出していただいたのが、収穫だったような気がする。

こういうデザインがいいとか、こういう形がいいということではなく、大事にすべきことは、その後のアクティビティを、どう保証していくかについて、皆さんの中から出てきたというのが一番大きな目的だということもあったので、今回、市役所の方もそういうことができる空間を、というのを意識してまとめられたと思う。

我々も、案1がいい、案2がいい、案3がいいと意見を言うよりも、まさにそこで何が展開できるのか、みたいなことを説明していただくことがメインだったので、今日はこういう意見があった。これを実際に実施設計する場合に、じゃあ、我々の的にいうと、どういうことなのか、みたいなことを今日皆さんの立場で少し深くお話をいただきたいというのが今日の趣旨かと思う。

議題はこれだけなので、あっさり終わらない様をお願いしたい。今日はJRさんにも来ていただいているので、そういうことを意識した設計あるいはデザイン、これは実はJRだけじゃなくてこの中で何ができるか、という話になると、当然通路となった場合のその使用許可の問題であるとか、あるいは何かをしようと思ったら、コンセントはとれるのだろうかとか、実際細かい話であるが、実施していく場合には色々あるかも知れない。

ですから、いったいここでどういうことをしたり、あるいはさせたり、見たり、見せたりしたいのかということを含めて考えていくと、皆さんから今日の御意見は、ただ単に出てきたコンセプトをさらに具体的に考えていく時のヒントとなるのかと思うので、気づく部分があればどんなことでも結構なので、皆さんから御意見をいただきたいと思う。いつもの様に手を挙げていただいて、そこでマイクを持ってお話いただくという形にしたいと思うので、どなたからでも結構なので、この結果を見た上で、この様なことも気にすべき

であるということ、あるいは、まとめた点について、ちょっとこの辺が物足りないのでもっと付加すべきであるという御意見をいただけたらと思う。いかがか。

単純な御質問でも結構だし、御意見があればいただきたいと思う。この書類がJRさんに行って、JRさんがこれから考えていく場合の参考になっていくという話であるので、ワークショップで出てきたあの案を言っておいて欲しいな、であるとか、あるいは、何を本当に考えるべきかみたいなことで御意見をいただければと思う。ある程度まとまっているという話で許可いただけるというのであれば、これでいいんじゃないかという意見でも結構、どなたでも結構だがいかがか。

### 【伊香委員】

前回のワークショップに出させていただいて、だいたい申し上げたいことは反映していただいたと思っているが、ただ、その時うちの班では、本当にたまたまだと思うが、男性側がどちらかという、金属的なデザインを好んで、女性側が木を使ったデザインを好んだ。

たまたまかなとは思いますが、もしかしたら、そういうことがあるとすれば、利用者のことを考えた場合に、確かに駅をメインに使う方、通勤は男性が多いのかも知れないが、その場所を楽しく使うということを考えるのはむしろ女性の方かなと。どちらかという女性にわくわくする感じのデザインにさせていただいた方が、その後の利用方法も活用方法もどんどん発想されて色んな形につながっていくのではと思った。

### 【北原座長】

女性がわくわくするデザインというのはどんなイメージか。(女性全体でなくとも)伊香さんが、でいいと思うが。

### 【伊香委員】

私個人の意見かもしれないが、青森らしく、かつ、青森駅らしいレトロ感をいかしたほっとするイメージを女性は好むのではないかと考えていて、そんな所にいると、愛着がわいて大事にしたいと思って活用したいという方向へつながっていく感じがする。

### 【北原座長】

つまり、デザインが非常に斬新だとか、いわゆる洗練されたデザインとかということ以上に、柔らかさだとか色んなものが、温もりみたいな物が感じられる様な形の方が落ち着くということか。

### 【伊香委員】

そうである。それでいてやはり、県都青森市の顔でもあることから、かっこいい感じのりんご箱の木のイメージでいただければいいと思う。

**【北原座長】**

女性がという話が出たが、大津さんいかがか。

**【大津委員】**

私も先日のワークショップに参加させていただいたが、実は私の班は、どちらかというとりんご箱はいらぬよ、みたいな意見が出ていた。

私的な意見としては、りんご箱はとても斬新だというか、昔風でありながら、なかなか使わぬ物をやってくれたな、みたいな形ではと思った。とても柔らか味もあるし、女性は好きかなと思う。

**【北原座長】**

直接使うにしても、モチーフとして使えるという話である。僕も聞きたかったが、いらぬという話をされたので、いらぬと言って言った人はどういう理由で言ったのか。

**【森内委員】**

みなさん、物語を作るとかおっしゃるが、意図してできた物語というのはつまらぬ。最初から計算されてその中でできていく物語よりは、やはり、その中で把握できぬところからその物語ができていく。それは人が作って行くので、必ずしもりんご箱が作って行く訳じゃない。具体性をもう少し広い面で眺めては、ということ。

**【北原座長】**

その場のその力で物語を起こらせようというのは違ぬだろう、というお話だと思うが、デザインモチーフとして評価する人もいるということだと思う。

**【加藤委員】**

ワークショップ等をやってデザインに関してとか、いわゆる外観、内観についてはこのメンバーでかなりワークショップで話し合ったので、私もそれなりに思っていることを言えたし、十分これでまとめられているので、何ら問題ないと思っているが、この後、おそらくもうやっていると思うが、JRさん中心に、使う側の人達に配慮した駅というのはどうあるべきか、というのを是非議論していただき、その中に、障がい者の方、目の不自由な方であるとか、耳の不自由な方であるとか、そういった方々が利用した時の配慮であるとか、そういったものを特に利活用で議論していただければ大変ありがたい。

**【北原座長】**

あえて今日の資料には書いていないが、当然のこととして。そして尚且つ、交通バリアフリーもある。今おっしゃった様に、どこに障がいがあるかによって違ってくるというあたりで、丁寧に考えていただきたいという話だと思う。前に品川駅を造る時に、視覚障が



いの方のタイルを真ん中に置くか、脇に置くかで論争になった。脇の方を歩いていると危ないということで、真ん中にしたらどうだという意見をしたら、一般の市民の方がツイッターか何かで、「そういう物を何でも真ん中を通すんだ」、みたいなことを言っていて、実は障がいに関しても我々はまだまだ色んな偏見とかがある。将来的に何をやれば一番安心かということを考えていただくことも出てくると思うので、その辺りも少し市役所と詰めながら一緒に考えていただければと思う。

#### 【鈴木委員 代理：小林氏】

私もワークショップに参加させていただいた。非常に市民の皆さん方が熱心で、あまり脇道にも脱線せずきちんと議論されていたのが、非常に、やはり青森の方々、東北全般を含めてだが、まじめな雰囲気だなということを感じた。

私からはデザインに関しては特に意見というのはあまり強くないが、1つ、今日駅から歩いてきて、新町通りが1つまちの軸になっていて、当然、自由通路というのは、新町通りを西側に伸ばした機能を持った通路でもあるのかなと思うことから、やはり、そういったデザインだけでなく、使い方というのも新町通りを伸ばした様な形で一体的に考えていく必要があると思う。例えば、通路で美術館という様な意見もあって、そこに、歴史的な写真であるとか、絵であるとか、そういったのを飾るというのは非常にいいと思うが、それが自由通路だけで終わりではなくて、さらに新町通り、アウガ方面へ伸びていく様になると非常に面白いと思う。あくまでもそこで完結するのではなくて、新町通りへ向かっていく物語のプロローグ的な形で使われると非常に面白いと思った次第である。

#### 【北原座長】

13ページにある、まち歩きに組み込まれていく様な仕掛けとか、アウガをもう一度輝かせるために、今、青森市も色々と考えているので、そのつながりは当然だろうという、アウガの完成、再生を待ってつながってくると考えるのが、2年後、3年後見える姿ではなくて、5年後、10年後かも知れないが、つないでいくことが前提だということの確認だと思う。

#### 【西委員】

そもそも、自由通路と駅舎の設計というのは、青森市の担当課のお話によると、やはり、専門的な建築になることから、コンペとかそういうのをしないで、JRさんにお任せする、そういう方向で話が進んでいたと受け止めている。

3案から1つを選ぶということにすごく違和感がある。コンペだったらわかる。複数のそれぞれ考え方の違う建築の人たちが提案をして、どの提案が一番優れているのかという、そういう意味では、コンペだったらわかるが、今回のように一者にお任せしているわけであるから、JRさんとしては、青森をイメージして、ワークショップで出てきた地元の声を反映させて、青森市にとって、市民にとって、青森駅を訪れる人々にとって、最高のも

のを造っていただければ私はそれでいいと思っている。

そのために、こういうのがあったらいいな、ああいうのがあったらいいなと、アイデアを出しが、このワークショップとか市民意見として出してきたのだから、それをうまく反映させたJRさんが、これが最も優れたものだというものを一つ提案していただければ私はそれでいいと思っている。

それから、また改めて申し上げたい意見があるのだが、14ページをご覧いただきたい。

14ページに鳥瞰イメージと海への視点というところがあるが、実は、海が見える場所が少ないという先程の説明があった。①と②の場所が、海がかろうじて見える場所ということとなる。ただ、15ページをめくっていただくと、実は、駅舎部分の北側が一番海の見えそうな場所である。なので、ここを是非、JRさんの事務所にしてしまうのではなくて、市民がここを歩けるような場所にしていただきたいと。ここは、多分、市民にとっても、訪れる観光客にとっても、一番いいポイントになりそうだという感じがしていて、それを何とか考えていただきたいというところである。

#### 【北原座長】

ありがとうございます。前半の話はまさにその通りなので、3つの中から1つを選ぶという発想で、JRさんにお話するのではなく、そのたたきとして、多分JRさんはこれがいいなと思っているのが、きっとあったという気がするが、3つじゃなくて、それを聞きながら、いろいろと、1つのプロセスとして、出てきたと僕らも感じているので、是非、そういう形でいいものを造っていただければ問題ないという話かと思うが、今ちょっと新しい考え方が出た。

自由通路、自由通路というが、自由通路込みで新しい駅舎ができるわけなので、駅舎の配置計画や平面計画の中で、海が見える空間に人を招き入れることができるかどうかということを検討して欲しいという話かと思う。

もちろん、執務空間であるので、無理なこともあるだろう。しかし、その置き方によっては、ラウンジみたいなことをしてみることができるとか、休憩スペースがあるという話があれば、あるいは、そこでずっと待ち合わせをして、下から昇ってくる人を待っているという話ができないこともないんじゃないかということが、我々のパッと見ただけの話だが、そういう検討を是非、設計の方で考えていただけたらということである。

#### 【齋藤委員】

ただ今の海への眺望が北からというところで、我々、設計上そういうことが可能なのかどうかというところで、検討はさせていただいた。

今回、この事業をスタートさせる時に、本来であれば、線路上空に駅舎を持ってきてという話が元々あったが、事業費の高騰により、この事業を進めることができない状況であったため、何とか、コストダウン策を考え、線路上空ではないところ、今の駅舎の裏側の空き地のスペースに、建物を持ってきてという必要最小限にした経緯がある。御要望通

り空間を配置した場合その面積も大きくなり、再度、工事費が膨らんでしまうという課題がある。

例えば、2ページのところをご覧いただきたいと思う。案1の外装イメージの左側に、駅舎と自由通路が、鮮明ではないが、見える箇所がある。

今の計画でいくと、自由通路が縦（東西）に大きく通っており、駅舎のほうは、緑のところと灰色のところがあるかと思う。限られたスペースの中でお客様の利便性が一番いい形で配置させていただいたと私どもも考えている。

緑の箇所は、みどりの窓口を配置し、びゅうプラザも含めて自由通路からすぐ入れる形にしている。それと併せ、ここに待合スペースも配置しており、休憩されるお客様もお休みになれるよう、この緑のところでは計画をしている。

この限られたスペースの中で、仮に海側に通路を配置すると、2階の灰色のスペースが白色のスペースになって、灰色のスペースが圧縮した形で併せて緑色のところも圧縮になる。しかも改札を入らないとそこにはたどり着けない様な状況になる。また、駅舎の後ろの駅員がいるスペースであるが、駅の周辺で何かあった場合は、2階から直ぐに自由通路などに行って対応しなければならないということもあり、わざわざ1階から上ってくる訳にはいかないので、そういうスペースを灰色のところでは設けているというところである。

まとめると、2階のスペースは非常に限られて、日々のお客様の利便性が一番向上する様な形で、自由通路に面したところにそういうスペースを設けており、列車に乗らない方もそこに滞在することができる、という利便性がある。そういう計画であり、もし、灰色のところを少なくすると、2階でのお客様の利便性を圧縮する、あとは、業務の緊急の対応が難しくなるという状況なので、今のところは、跨線橋からの眺望、あとは、この後計画されるであろう、駅舎の前からの眺望というのが将来的には考えていくところではないかなと考えている。

### 【北原座長】

現状での考え方でお話をいただいた。今の見た限りにおいて、結局は、今、西さんがおっしゃっているのは、この灰色の右側の面が、もし光が入ってくれば向こうが見えるよねって話で、それを面積的に潰していこうとすると、改札口を通り抜けた人だけだったら、抜けた右側の部分を白くできるが、やはり待合室というのは入る前の人たちと考えると、緑の窓口のところにある、緑色のところがそういう空間で、待合もあるということになると、(図面)下の方しか見えない、緑のところの下の壁面（駅舎東側の壁面）はガラスが入るのか。

### 【齋藤委員】

一部入る予定だが、前面のところに将来的に何が来るかにもよっても今後検討していくところかなと考えている。

### 【北原座長】

ある程度、開口をしっかりとあけていただき、閉じた空間じゃないという形を出していただくというのがまずいいんじゃないかという気がするが、その辺りのことを少しデザインの方で今の御意見を伝えていただきたいと思います。面積的にきついということは分かるので。そういう意味での開口の作り方だと思うし、あるいは駅舎の方も当然、駅の窓を通して見えてでもいい。勤めている方の横顔位は見えてもいいので、そういう意味での開口部の取り方を少し工夫されてはいかがかと思うので、よろしく願います。

### 【西委員】

私も当初は当然ホームから上がってきて、改札を抜けるまで動線の中で海が見えるというのが最も重要だと思っていて、ここ6,7年位、それを言い続けてきた訳だが、今回こういう形になったことにより、先程申し上げた様な駅舎の部分が、動線の中では通り抜ける様な形にはなっていないということで、致し方ない部分はあるが、海が見える場所はどうしても確保したいと思っていた。今のお話だとスペース的にもちょっと厳しいということであれば、屋上に上られるような仕組みを作って、屋上庭園みたいな形でそこを整備して、そこから海の眺望を確保するというのも考えられる。お金がさらにかかる話なので直ぐにできるか、できないかはあれだが、上に上れるようにだけはしておけば、後々、都市機能部分だとか何だとか増築していく時に一緒に合せて検討できる可能性もある気がする。先日、「GINZA SIX」に行って来て、こちらの庭園が非常に良かったのでそれを思いついた次第である。

### 【北原座長】

そういう辺りの可能性について検討していきたいということだと思う。もしそういう使い方ができたら名所になるだろうし、そこから何かを見るみたいな、青森の新しい風物とつながる可能性が出て来る。当然そうなると、上の部分、パラペットの部分とか、あるいは、材料とか考えていかないといけないが、やり方次第で面白くなるんじゃないかという話だと思うので、その辺りの御検討をお願いします。

### 【矢崎委員】

今回初めての会議の参加なので、あまり詳しくなく、この資料もつい先日もらったばかりであり、案2をベースに考えて欲しいという御意見もあり、それで私なりにも考えてみたが、青森というのは、やはり、りんご、豪雪というイメージがあるので、案2を考えるのであれば、冬、列車で来て、降りて、そのとき、階段、エスカレータを昇ってきたときに、案2の小窓のところに暖かい光を取り入れて、そうなった場合は、ちょっとした青森の温もりを感じるのかなと思ったりもしたし、南側もガラス張りなので、私、結構あすなろ橋を通っているが、そのとき、自由通路を見たとき、この自由通路自体がぬくもりのある自由通路のかなというイメージで作っていただければと感じたところである。

### 【北原座長】

いわれたところが絵になると、光の橋になる。あすなろ橋のほうから見ると、そのこと自体が温もりになるだろうということ。

今、僕らは、自由通路がまちの中の「まち歩きのひとつの物語だ」という言い方をしていたが、逆に言うと、今の話は、ホームで寒さを感じて、昇ってきたときに暖かい空間があるということに意味があるのではないかというお話であった。そういうあたりがとても気になるというお話なので、また、覚えておいていただきたいと思う。

### 【赤石委員】

ワークショップには参加できなかったが、デザインについては、それぞれ特徴があり、ワークショップで様々な意見が出されて、案2をベースという意見があったが、14ページにあるが、先程、西さんの方からも意見があった、自由通路から、四季で違った海が見える空間に是非して欲しいと思う。特に、青森の冬の地吹雪というか、2階から、1階からとは違った目線で見ると、ということができると、なかなか体験できるものではないのではと思っている。

また、皆さん御存知のとおり、青森市の積雪は、近年少なくなっているが、人口30万都市では日本一と言われるくらい多い年もある。その中で、冬期間は、日照時間が少ないということもあるので、少しでも明るい雰囲気にするということ。

事故防止の観点から、駅のホームを含めて、積雪対策、暴風雪対策を考慮する必要があると思っている。

### 【北原座長】

見え方の問題、積雪地であるだけに処理しなければいけない。例えば、出てきたところに雪庇なんか作らないように、常識的な話として当然だよという話だと思う。

### 【大津委員】

いろいろデザインを見て感じることはあるが、案2がいいという話で進んでいるわけだが、まずは、この案を見ていくと、南側、山側の窓の開口面積が非常に大きくて、北側が少ないということ、これはこれから海が見えるということで、見直しをかけてもらうということだが、先程、JRの齋藤さんから、JRで使う部分が決まっていて、そちらの方からの海の眺めがいいという話があったが、もう少し自由に歩けるような配置にして、もう少し考えていただきたいと思う。あと、今窓がついている南側が山側になるが、今の通路からは、建物だけが見えていて、ほとんど山が見えない状態であると、この間駅に行ったらそういうふう感じて、それよりだったら、海側が見えて、窓がいっぱい見えたほうがいいのかと、そして南側にりんご箱ということもあったので、それを貼りつけて、ところどころに、南側の明かりを取り入れるような形をとれば、もうちょっと、温かみがある

のかなと思う。ただ、ひとつは、内観のイメージだけではなくて、外観のイメージがとても大切になると思うので、その辺、眺望を取ったような形を取っていただきたいと思う。

#### 【北原座長】

ありがとうございます。山側を開けたことによって、南側の温もり、光が入ってくるということで開けたようであるが、海のほうも、りんご箱を敷き詰めてというか、開けかたによっては、とてもいい眺めを、それを止めているところもあるので、その辺りもういっぺん、少し考えていく方法があるのではないかという御意見かと思う。開け方によってのリズムでいろいろデザインを見たときに、あそこに、窓がああいう形で開いているというみたいなこともデザインなので、何メートル間隔で開けようという問題ではないと思うが、やり方によっては、海側も開けようがあるんじゃないかという御意見かと思う。

#### 【珍田委員】

前回のワークショップは、2回目から参加させていただいた。1回目から参加している方が多い中で、私があとから入って感じたのは、非常に皆さん熱心に「こうしてください、こうしてください」ということを望んでいらっしゃるということがすごく印象に残っている。

ただ、どうしても、この連絡通路というものを考えたときに、これはあくまでも駅にくつついた、東口と西口をつなぐための移動空間であって、壁や屋根を剥がしてしまえば、構造は全く変わらないと。その中で、どんなデザインがいいか、ということがまず論じられているわけだが、そういった中で、案2のりんご箱のイメージ、これを中心にやったらどうでしょうかという流れになっている。これはこれで、昔、青森駅前の通りに、りんご市場があったことを考えれば、歴史を語る意味でも、これはいいことなんじゃないかなと思う。

ただ、その中でいろいろ聞いたら、連絡通路だけということよりは、駅に入っていくための入り口でもあり、それから今回出た、西口のレイアウト、こちらになると、観光のチャーターバスだとか、非常に多く着くということなので、観光客の方が列車を降りて、通路を歩いて移動してということで、青森を訪ねてくる方々も使うことがある。ですから、私たち市民とすれば、生活動線の中としての通路として、なんかいろんなことをやってももらいたいという気があるが、欲を言えば、初めて青森を訪ねてこられた方々も、「青森ってちょっといいんじゃない」という印象に残るようなものを、JRさんが造ってくれればいいと感じている。

#### 【北原座長】

特に、タクシーということであれば、西口駅前広場のイメージが今日出ていたが、当然これができると、西側の方から乗っていく、タクシーバースも整備されるので、裏という発想ではなくて、あるものについてはこちら側から出て行った方がいいという考え方もでてるのかなと思ってたが、今の率直な、直感でいいのだが、どんなふうになるか。タク

シーが、数の問題も含めてであるが。

**【珍田委員】**

数については、もう少しあってもいいのかなという気がしないでもないが、どこに行くかで降り口を決定するかということで、例えば、三内丸山であるとか、そういったところに行くのであれば、当然、西口の方がはるかにいいということになる。

**【北原座長】**

そういうサインなども、当然、自由通路の方に無いと、逆に困る話もあるだろう。

**【珍田委員】**

あと1つ提案であるが、通路の床の一部をガラス張りにして、下に線路があるので、列車が出たり入ったりするのを上から見るのも楽しいかと、そういうことも考えたりした。

**【北原座長】**

それは、意見として、是非、齋藤さんに覚えておいていただいてということで、そういう意見も出たということで。

**【齋藤委員】**

設計・施工する立場で、ひとつだけ、御理解いただきたいのは、今後進めていく中で、この事業が大幅にコストダウンをしてスタートしたということで、予算がどうしても限られてくるところにより、やはり、制限があるということ。新たなものをつけていく、例えば、床をガラス張りにして、構造がしっかりしたものにしてとなると、これは、かなりのコストアップにつながる。当然、皆さんの御要望の中で予算内で反映させられるところは、していきたいと考えているが、そこも、上限があり、何から何まで含めて御要望通りというところは、なかなか難しいことを御理解いただきたいと思う。

**【北原座長】**

ですから、今日はこういう意見の中で、ちょっとそれ、表現できるか、みたいなことについても、ギリギリの検討をしていただきたいという話なので、全部ガラスにという話はしていない。今日みたいなアイデアを、さっきの屋上ビューを含めてだが、できるかできないかという検討をしていただきたいということである。

**【東委員 代理：船木氏】**

このデザインをどうするかを決める思いで来たが、事務局の方から話があったが、ひとつの案に決めるのではなく、総合的に勘案していくという話もいただいたし、今のJRさんからも「様々な意見を踏まえたうえでデザインをする」とうお話もあったので、デザイ

ンに関してはそれでいくのが一番いいのだろうと思っている。

交通事業ということで考えると、今、この会自体は「まちづくり」という言葉が出ているが、まちづくりと交通政策というのが一体不可分ですよ、というようなお話になっている。

交通をどうしていくかというのが大事だというふうになっているのが、国の政策の今の中身だろうと思っているので、今、まちづくりの基盤ができる時期なので、今後、どう進めていくのかというところで、しっかりしていくことができるようになればいいと思っている。

#### 【北原座長】

青森市のまちづくりの性格という発想から考えたときに、これはひとつの切り口になるが、それで終わるものではないので、ぜひ、そのあたり、これから、立地適正化計画とかを進めるにあたって県庁の御支援をいただきたいと、青森市に代わって申し上げたいと思う。

まさに、そうしていかないと動かないということだと思う。

#### 【森内委員】

過去の、都市計画の先生が仰ったように、駅は門、「かなめ」である。ひとつこの図を見て、残念と思っているのが、平面という表示のわりに立体が浮かんでこないというのは、1階も2階もレベルが分からないので、あとは現在に残す建物、残さない建物というのがよく分かっていないので、皆さんの意見として、以前の景観審議会で、街との調和が必要と言われたというのが、その辺の建物との関連性も単体ではなくて、すべてトータルで分かるような形で処理してくださるともう少し、皆さんに親切なのかと思った。

「かなめ」ですので、皆さんに、JRの方にもがんばっていただきたいと思っている。

#### 【北原座長】

僕も一委員として、皆さんが言わなかったことを考えて3つほどお話したいと思う。

1つ目は、冒頭にちょっとお話した。この空間は歩くだけではなくて、ここで何かを見せる人も出てくる可能性もあったり、立ち止まって何かを聞くみたいなことができる可能性も無いわけではない。そういうことを「さあ、できたあとにどうしようか」ということを「じゃあやろう」と思ったらそこで、例えばエレキギターが弾けないとか、あるいはそこで立ち止まって何かするとき、そういう設備が何も無いとかという話で、できた後につけるのは無理だと思う。ですから、やはり市としては並行して、この空間で何をやることを許可し、あるいは自由な人々の創発的なパフォーマンスを活かせるようにしていくためには、ある程度の設備をどこかにちゃんと付けておかないと、でも全部は無理なので、やるならこの場所でみたいな、形も含めて、やっておかないと、自由通路がいかせないとい



った話があるかと思いますがその辺りを、考えておくべきではないかと思う。

今、私や西さんは並行して市役所の建物の方の会議にも出ている。そのワークショップで出てきた意見には新しい市役所の、大きな広場でいろんなことをしたいという意見が出た。当然マイクが要る。あるいはそこで、バザーとか、ちょっとしたイベントとかをやろうとするとガスはどこでとるのかだとか、いろいろある。その辺りを設計するときから考えて行きましょう。後で広場に付加するのでは無いという意見があったので、それはもう設計チームにも伝えた。だから彼らは最初から「どこに」とか考えなくてはいけないと言っていた。

同じようなことがここにもあるような気がする。コンセントなんかを無闇に付けてしまうと、携帯電話を充電する学生が出てきてしまうのではないかとか、そういうことは置いておいて、使い勝手を考えていくみたいなことを、是非、設備計画についても、できることできないことハッキリした方がいいのではないかというのが1つ目である。

2つ目は、できた空間をどう関わって管理していくかということについての、そのできた後のことについて、ひとつはまさにメンテナンス、ひとつはこの通路は市民が歩きますから、今後のメンテの体制をどう考えるかである。今のような跨線橋と違って人々が歩くパブリックな空間であるから、どう行うのかとどう関わられるのかを、もうひとつは管理だけではなくて、そういった企画みたいなことに市民がどう関わられるかみたいな運営の話についても並行して建物ができるまでに、これはJRさんというよりも市役所が中心となりながら考えていって、どこまでできそうかということをしてJRさんと相談しなくてはいけない気がする。

20年前に県庁の北側にある駐車場の会議に出ている、青森の国道事務所の当時の所長さんも出ていて、日本で一番細長い美術館を造ろうと言って、駐車場の脇に色々な仕掛けをして、しばらくの間は協議会を作って色々な企画を考えていた。珍しい駐車場だということで、所長も土木の空間が文化の空間に変わったと喜んでいて。

この自由通路もそういう集団とかグループが関わっていく、育てていく形にしないと単なる空間のままで終わると思うので、市民の場所にするためにも、それはJRさんの設計というわけではないが、ぜひそういう活動をしていけるような、取組を考えたり、その人達にイベントを考えてもらったり、もちろん最初の出発は伊香さんのような商店街の方とかいろんな方が入るのだと思うが、そのうち自由通路の名前も考えると、そういうグループに任せてしまった方が面白くなるのかなという気がするので、ソフトの部分、ハードは先ほどから金が無いという話で終始しているが、せめてソフトくらいなんとかできせんかということをお話してそれが2つ目。

3つ目は、さっき船木さんがおっしゃった話で、結局これはまちにつながってなくてはいけない。小林さんもさっき新町のという話をされていたが、青森駅を中心としたまちづくりの委員会から始まりましたので、自由通路の委員会ではないので、これは、青森駅を中心として新町にどうつなげていくのかという話を考えなくてはいけない。そのときに、今、まさに、アウガは市役所の新しいもうひとつの庁舎として整備が始まっていく。来年

からいよいよ動き始めて形が見えてくる。これからの10年なり5年の計画の中で、いずれこの自由通路からの動線をどういうふうにあウガ方面に結び付けていくのかという話は、これは至上命題だと思う。

そのときもしかしたら、いろんなハードのお金も付けてつなげなくてはいけないかもしれない。安直に言うとも一番分かりやすい話から言うと仙台のように、あるいは秋田のように駅からペデストリアンデッキでつなげるのか、あるいはもしかしたら新しいラビナが出てきたときに地下をそのままつなげて、今の駐車場があるところに入り込めばいけるのではないかという話である。

そういう話は今の事業の次に来る。そういう話を将来イメージとして作っておかないと、そのための布石を打っておかないと、後でやりたいと思ったときにあそこはもう箱物を硬く造ったからもう無理だという話だともったいないので、長期展望の青写真を市の方でも考えていただいて、そして、折り合いがうまくできたらJRさんと相談しながら本当の意味でつなげていくみたいな形にもっていくくらいのビジョンを持っていただきたいというのが最後の話である。

今の駅舎についてはJRさんにお任せするが、つなげていく相手こそがあウガでないかという気がするし、まさにその部分を一緒に動いていただき、それと立地適正化計画なんかをうまくつなげていっていただかないと、まちの中は元気にならないのではないかと感じる。

これは、今日のデザインの問題を超える話であるが、青森が20年後に「駅前が立派だね」と言われるためにはその辺りを是非考えていただきたい、ということをお願いするのが、僕の個人の意見としてお話ししたいと思う。

予算的には厳しいということは明確になったと思うので、あまりいろんなものを欲しい欲しいとは言わないが、だけでも欲しいと言っている中で、こういうふうなものが本当はあったらいいなみたいなことを、メリハリというか、同席していた齋藤さんには少し感じていただいて少し検討していただきたいと思う。

今日の内容は、あとは整理していただき、改めて文字化するなりして、JRさんとの協議の中で使っていただくことにし、事務局の方にマイクをお返しする。

了